

情報連携推進本部は、平成18年4月1日に運営支援組織として発足し、名古屋大学の情報戦略の企画立案、情報インフラの整備、情報セキュリティ対策、更には文部科学省の共同利用・共同研究拠点として国内トップクラスのスーパーコンピュータの使用環境を提供すると共に、教育研究を支援するための各種の情報化支援サービスを実施しています。

情報環境マスタープランの策定

名古屋大学における中長期にわたる情報環境整備における指針を示す情報環境マスタープランを、情報戦略室が中心となって策定しています。このマスタープランに基づいた様々な施策が実施され、新しい情報サービスが次々と誕生しています。



情報セキュリティの高度化と啓発活動

今や教育研究において、情報セキュリティの確保は必須となっております。情報セキュリティ室が中心となって、情報セキュリティポリシーおよびガイドラインを定めるとともに、情報セキュリティ研修、自己点検(セキュリティチェック)、標的型攻撃メール訓練などの学習環境の整備も含めた啓発活動、および、情報セキュリティインシデントへの対応などの活動を継続的に行っています。



ログインについて About Login

きよらのメッセージ

年次情報セキュリティチェックは各自が毎年度受講する必要があります。
Yearly Information Security Check must be taken every academic year.

- 年次情報セキュリティチェック 実施手順 日本語版
- Yearly Information Security Check Instructions English version

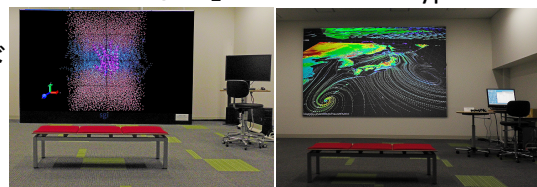
年次情報セキュリティチェックe-Learning

大規模コンピューティングサービス (HPC)

全国の大学等の広範囲にわたる学術研究、学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点の共同研究活動、HPCIを活用した萌芽的研究から大規模研究まで、さらに産業利用にわたる幅広いHPC計算利用を加速するサービスです。



スパコン「不老」サブシステム Type I~III



可視化システム室(左: 8K、右: 3D)

- ・「富岳」型計算システムのFX1000を含む、多様な大規模計算環境
- ・30PBのホットストレージと研究データアーカイブ用の6PBのコールドストレージ(世界初)からなる大規模ストレージ
- ・SINETを介した高バンド幅、低遅延のインターネット接続
- ・幅広い研究分野に対応する様々なアプリケーションソフト
- ・8K高精細モニタや遠隔可視化機能を有する可視化システム

認証強化(多要素認証化)

近年では、フィッシング詐欺もますます巧妙化が進み、IDとパスワードだけの認証では不十分な状況にあります。名古屋大学は2022年度末に、学外からのパスワードのみの認証を禁止し、多要素認証への移行を完了しました。また、これにより複雑になった情報環境利用セットアップ補助にも力を入れています。

- ・東海国立大学機構アカウント(Microsoft 365の多要素認証)
 - 機構アカウントによる多要素認証シングルサインオン
- ・名古屋大学ID (OATH-TOTP)
 - CASによる多要素認証シングルサインオン
- ・情報基盤センター提供の部局Webメール基盤(OATH-TOTP)



名大ID+パスワード → 認証コード

スマホ用認証アプリ

または PC用認証アプリ / ハードウェアトークン

多要素認証CAS化した名大ID SSO



それぞれに設定が必要

多要素認証CAS

名大WebMailシステム-Roundcube

Microsoft IDを確認する

機構アカウント

名大の多要素認証SSOおよび多要素認証化した既存サービス